

南都銀行「観光企画室」が取り組む

奈良県内への観光客誘致策

奈良 奈良県に営業基盤を置く南都銀行は、平成16年6月、同県の観光振興をバックアップするため、「観光企画室」を新設した。設置当時、銀行業界としては初めてだった観光振興専門の部署

は、様々な企画・提案を实行。発足から10年、観光客誘致に徐々に成果をあげている。

本特別レポートでは、これまで観光企画室が取り組んできたプロジェクトの歩みを紹介する。

言わずと知れた歴史ある街・古都奈良。東大寺や薬師寺など全国に名が知られた神社・仏閣が多数

建立されており、日本でも指折りの観光県となっている。

この奈良県を営業基盤とする南都銀行は平成16年6月、営業統括部内に「観光企画室」を新設（現在はパブリック開発部内）。ホームページやセミナーで奈良県の魅力を発信したり、銀行OBによるボランティアガイドを派遣したりして、観光客誘致に向けた精力的な

活動を展開している。

だが、そもそも奈良県は観光県として有名で、毎年多くの観光客が訪れている。にもかかわらず南都銀行がなぜ「観光企画室」を立ち上げたのだろうか。

「第一に、平成16年当時は、当行が創立70周年を迎えるとともに、奈良県の『平城遷都1300年祭』（平成22年）を6年後に控えていたことから、その対応の一環として設立したということがあります。第二に、奈良県の観光産業が決して楽観視できる状況にはないということ。観光客の数は1988年をピークに減ってしまし、京都や大阪からアクセス



県内の観光資源を広く発信して 地域の活性化につなげていく

が良いため、県内に宿泊する観光客は多くありません。奈良県にとって重要な観光産業を、地域金融機関として活性化させたいという思いで、『観光企画室』を立ち上げたのです」（パブリック開発部観光企画室・鉄田憲男さん）

観光誘致といえ、どうしても自治体の取組みという印象がある。縦割りによる個別の対策、いわば「点」での誘致になりがちである。一方、南都銀行であれば、奈良県内全域にネットワークがあり、各市町村ともスムーズな連携

が可能。「面」で対策を取ることができる。そのような理由も観光企画室の設立を後押ししたという。

Webサイトで営業店がおすすめスポットを紹介

では、具体的にどのようなことを始めたのか。最初に紹介するのが、Webサイト「ええ古都なら」だ。観光企画室がこのホームページを立ち上げて運営。奈良県の魅力を広く発信している。

観光サイトの中には、観光地を

ただ横に並べただけのものや、ガイドブックに載っている有名スポットだけを紹介しているケースが多い。「ええ古都なら」では、決して有名ではないが、知る人ぞ知る、かくれ観光地や名産を楽しく紹介している。

例えば、「ええ古都なら」のサイト内にある「ナントええ古都なら再発見」というページ。ここでは南都銀行の各営業店が、自店の営業エリアにある、観光ガイドには載っていないおすすめスポットを紹介している。日頃、地元で営

活動を展開している。

だが、そもそも奈良県は観光県として有名で、毎年多くの観光客が訪れている。にもかかわらず南都銀行がなぜ「観光企画室」を立ち上げたのだろうか。

「第一に、平成16年当時は、当行が創立70周年を迎えるとともに、奈良県の『平城遷都1300年祭』（平成22年）を6年後に控えていたことから、その対応の一環として設立したということがあります。第二に、奈良県の観光産業が決して楽観視できる状況にはないということ。観光客の数は1988年をピークに減ってしまし、京都や大阪からアクセス

「ええ古都なら」のホームページ

トップページも毎月更新されており上記は2013年12月のもの。

『ナントええ古都なら再発見』の表紙